

平成29年 7月12日

報 告 書

大田原市広報広聴委員会委員長 大豆生田 春美 様

大田原市議会 第1班班長 君島孝明

大田原市議会報告会実施要項第9条第1項の規定により、下記のとおり報告いたします。

記

1. 日 時 平成29年 6月26日（月） 午後 7時00分～ 8時30分

2. 会 場 野崎研修センター

3. 担当議員と役割

【担当議員】

君島孝明	(班長)
君島孝明	(司会)
高木雄大	(総務常任委員会発表者)
印南典子	(民生 ")
鈴木央	(建設産業 ")
高野礼子	(文教 ")
前田雄一郎	(文教 ")

4. 参加者 別紙受付表のとおり

- ・市内 31名（男性24名、女性 7名）
- ・市外 0名（男性 0名、女性 0名）

◎ 一班 意見交換会 まとめ ◎

- ・ 行政視察後の市への提言はわかるが、提言後に市としてはどう考えているのかが見えてこない。
- ・ 本市の婚活マスターについてどう考えているか
- ・ 婚活は市民との協働事業になると思うが
- ・ 第二回目の報告会だが、世代的に年齢層が高い。もっと若い方に関心を持ってもらう周知方法も考えるべきでは。もっと周知したほうがよいのでは。
- ・ もともと興味を持っている人以外の人々の興味を引くようなチラシやポスターを作成したほうが良いのでは。
- ・ 高齢者の活躍の場を増やしてほしい。学校や子育てのサポート等も含め高齢者パワーをどう活用していくのか。高齢者が世代間交流できるような市の動きがほしい。
- ・ 学校の先生方も非常に忙しい、私たちが手伝えるところがあればとおもうが。
- ・ 視察後の市への提言の説明があるところとないところがある。市への提言まで報告したらどうか。そこまでは最低限やるべきだ。
- ・ 現在は海外の視察はないのか。
- ・ 消防サイレンが現在は無線で吹鳴しないが、あれはどうにかならないか。
- ・ 後で回答となっているがどのような形で回答されるのか。
- ・ 大災害が発生した時、消防で工作作業車は現在何台あるか。
- ・ 大災害では、行政が動くまで時間がかかる、阪神大震災で実際に救助救出をしたのは身近な住民が大半であるため、地域に即した防災計画が必要ではないか。
- ・ 消防団員を中心とし地域住民との救助救出に関する知識の向上を図ってほしい。
- ・ 消防団員サポート事業とは何か。また、それで団員を増やせるか。
- ・ 0B 消防団員のほりおこしを。

- ・介護施設に入れず、先々老老介護になるため、介護学習講座みたいなことを開いてほしい。
- ・税金を使い防災士養成したのだから、防災士を集めて研修会などを行い、役に立つ組織を作ったらいいのではないか。
- ・3-3-3 号線の跨線橋の進捗状況はどうなのか。予算を取ったとは言われたが、その後何もない。
跨線橋化に伴い、下の踏切をなくすと言われているが、それは住民としては生活道路で困ってしまう。議会では討論されたのか。地域の意見を聞くべき。
- ・防災協定を結んだ江東区とのその後はどうなっているのか。明日のために、もっと綿密に話し合いをするべきではないか。
- ・石上小の登下校の時、国道 4 号を通る。歩道はあるが雨の時など傘が車の勢いで吹き飛ばされそうになる。危ないので登下校の時だけでもスピード制限ができないか。
- ・行政視察が遠くばかりである。もっと近くで時間をかけて視察を行った方がいいのではないか。
- ・市の境のライフライン（下水道など）が共有できないか。検討してほしい。
（那須塩原市在住の方から）
- ・石上小の裏門から出る際、中央分離帯があり右折できないので、分離帯を斬ることはできないか。要望も出しているが、警察の見解は無理とのこと。
- ・意見交換会の時、隣のグループの声が聞こえて、何を言っているのか全く聞こえない。隣の部屋もあるからそっちを使ってもいいのではないか。